

マネージメント情報

2022年8月



この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

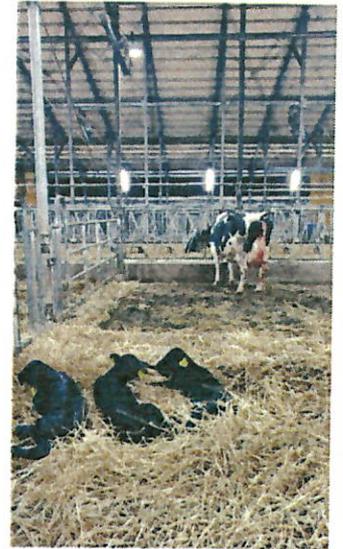
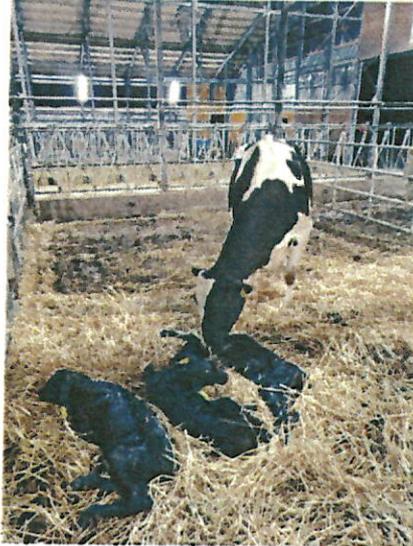
マネージメント情報

※三つ子が誕生しました

8月1日に顧客の農場で三つ子（花之福【TW38】のAI産子♂♂♀）が誕生しました。私の獣医師人生の中で子牛が3頭とも生存して生まれたのはこれで3頭目です。但し今回は35日目の妊娠診断時に3つ子だということがエコーで診断されていて、60日目の再妊鑑の時には雌雄判別もしていました。

写真のとおり3頭とも子牛たちは通常と変わらない位の大ききで、本当にこの親牛のおなかの中に入っていたのかと思うと驚くばかりです。

その後胎盤停滞も無く食欲も落ちずに順調に搾乳牛群で活躍しているそうです。

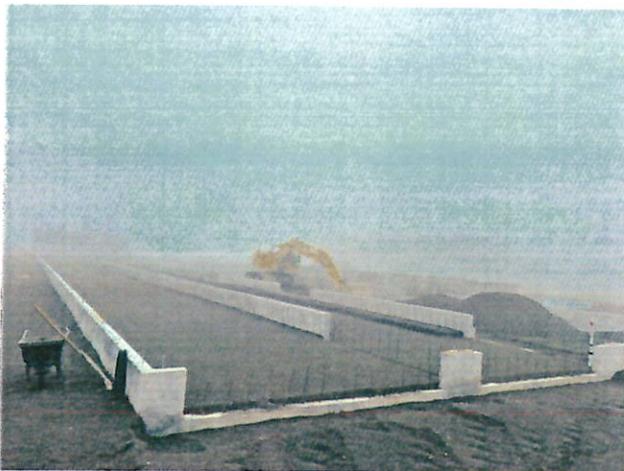


※ラボ預託 OPU 牛舎の進捗状況

昨年秋から工事が始まりましたラボ預託 OPU 牛舎ですが、当初は9月完成予定でしたが工期が伸びて10月になってしまいそうです。

現在の状況（8/13時点での写真でM情報ベ切り当日のため朝靄の中見づらい画となってしまいました）の写真です。

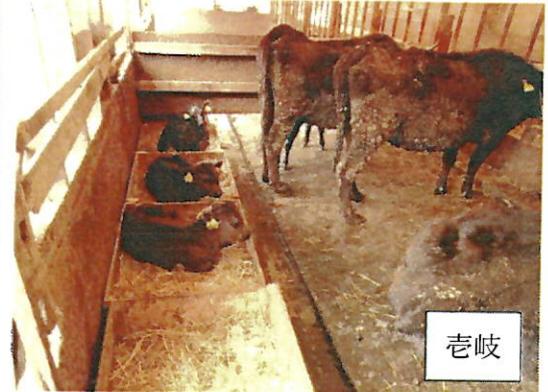
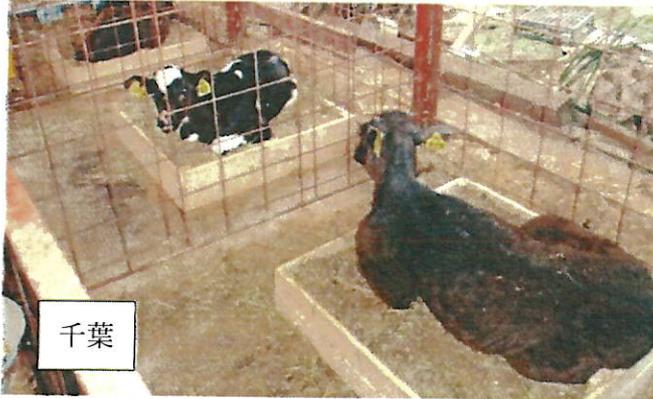
ようやく基礎の型枠が外れ、お盆休み明けの工事が始まるのを待っている状況です。



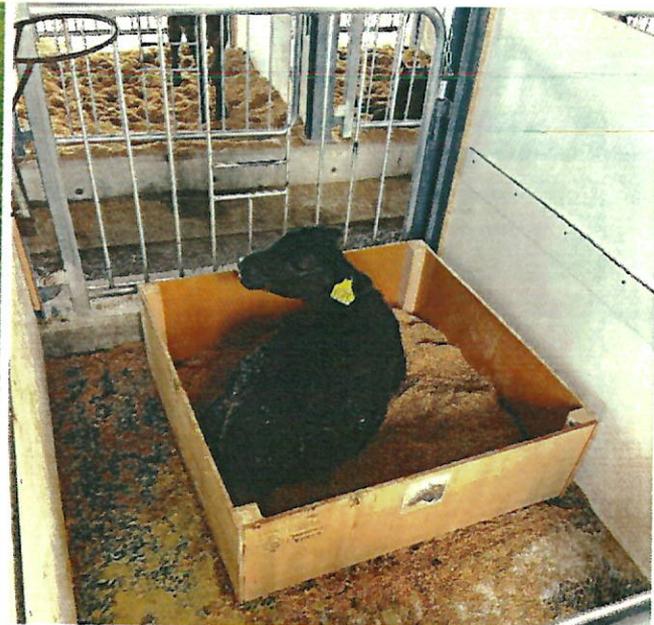
昨年度の体外受精卵の生産数が20,000個を超えるところまでできていますので、この自前のOPU牛舎が完成した後は定期的にOPUを実施するようになりますのでさらに生産数が増える計画です。

受胎率の評価も全国的にいただいています、さらに全国の酪農畜産に貢献することができればと考えています。

千葉で始まったこの方法は、吉岐でも使えました。そしてここ道東でも・・・
敷料が飛ばないし、毎度交換しなくてよい(糞だけ取り除く。尿は勾配で流れる)、分厚いので快適。



吉岐では親付けしていたので、より効果的でした。推奨は、内寸法で80cm、高さ15cm程度ですが、今回は下のようにパネコート(コンパネ)で作ったので90cm。高さを少し高くしてみました(30cm)。手前の下に隙間をあけて水はけ口を付けました。また、手前が分かりやすいように絵(富田美穂さんの絵葉書)も貼りました。



設置された翌日に見に行ったら・・・牛が使ってくれていました(「外で寝ていることもある」そうですが、選択の余地があることも重要なポイント)。ここでは敷料はモミガラです。モミガラは水分を吸収しないので、薄くなると、はだか尿ヤケしてしまうことがあります。だから分厚く敷きたいのですが、全体にするより、このように囲うと無駄になりません。もっと厚くすることをお勧めします。特に、子牛を親牛のそばで飼っておられる方には清潔度も増すのでお勧めです。

命名「箱入り娘」

削蹄鎌 研ぎますよ～

阿部

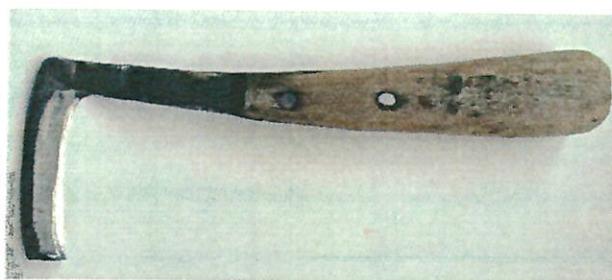
先日、蹄病治療にお邪魔したある農場(ココの方はかなりご自分で初期治療をされておられる)で、帰り際に「鎌、研ぎましょうか・・・」と言ってみたところ・・・まあまあのシロモノが出てきました。



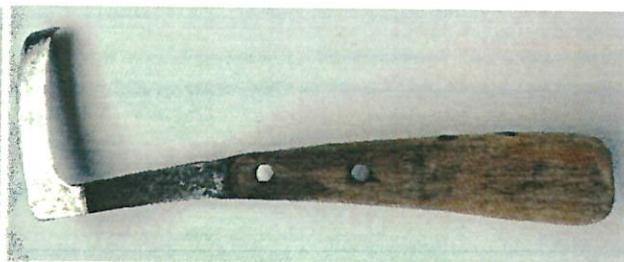
Before オモテ



ウラ



After



イチローの言葉で、

『汚いグラブでプレイしていたら、その練習は記憶には残りません。手入れをしたグラブで練習をしたことは、体に必ず残ります。』

これは我が社を含め、世の獣医師に是非言いたいことです。

ということで、

皆さんの削蹄鎌、研ぎますよ～

フェルトで内張りした合皮のカバーをお付けして、
1本500円かな～～(共済は効きません)

出入りの獣医師、授精師にお渡しください。

